

伊自良の成り立ち

参考図書 「伊自良誌」「2 1 世紀への贈りもの」「私たちの村伊自良」 後藤

先土器時代	1 0 0 万年	縄文 1 万年	弥生～
-------	----------	---------	-----

先 土 器 時 代	<p>1 0 0 万年以上前</p> <p>旧石器時代</p> <ul style="list-style-type: none">・寒冷期と温暖期・寒冷期には地球の北半分が氷河ギフチョウカンアオイハコネサンショウウオなど <p>ギフチョウは、食草であるカンアオイやウスバサイシンが生える限られた地域にだけ生息している。氷河期など地球の厳しい環境変化に耐えて生き残った。</p> <p>縄文中期頃までは、コナラやクリの暖温帯落葉広葉樹林がかなり広範囲に存在し、一方ではこのころから徐々に人手の入った二次林ができ始める。人々が森に手を加え続けたことで植生遷移が留まり、明るい森でしかすめないギフチョウやカタクリなどの生き物も生き続けることができた。</p> <p>また、照葉樹が北上してきてからも温暖地に落葉樹の二次林が存続して、里山昆虫の住処となってきたらしい。</p>	<p>弥生時代 紀元元年（約2 0 0 0 年前）</p> <ul style="list-style-type: none">・水稻農業・金属器の使用目器・石器・金属器・ガラス恋洞地区 低湿地に水田 <p>古墳時代 大和朝廷（飛鳥地方）仏教伝来</p> <ul style="list-style-type: none">・大門古墳群・大森笹池古墳 <p>大門の土器↓</p> <p>1 4 0 0 年前</p> <ul style="list-style-type: none">・横穴式古墳が多数構築掛大門古墳 笹池古墳尾脇古墳 小倉古墳 <p>東大寺正倉院の資料より</p> <p>「御野国山方郡三井田里戸籍」</p> <p>御野国とは岐阜県美濃地方</p> <p>山方とは「山の方」という意味も</p> <ul style="list-style-type: none">・土器 掛大門 大森恋洞尾脇 掛大門 <p>中期 山県郡発祥の美濃山県氏</p> <p>甲斐山県氏、安芸山県氏ルーツ 源国直がこの地を地盤</p> <p>歴史上の人物（山県昌景、山縣有朋）</p> <p>美濃国山県郡伊自良村 （三野国・・青野 各務野 加茂野）</p> <p>美濃県の古地 地域の長を県主と呼ぶ</p> <p><u>伊自牟良君（いじむらのきみ）※</u>（平井 県神社と関連の可能性）</p> <ul style="list-style-type: none">・山県（山上田）・方県（潟上田） <p>7 0 2 年 東大寺古文書 「戸籍 山方郡」</p> <p>7 2 3 年 三世一身の法 墾田永代私財法</p> <p>地名由来の説</p> <ul style="list-style-type: none">・出石郷（イズシ）→伊自に仮借 ※和名抄・<u>牟義都国造伊自牟良君の女</u> ※釈日本記所引の上宮記久留比売命（雄略天皇の御代意の富富等王の妻）・石村が訛って名義は「伊自良」となる。・甘南備明神の石占信仰※山県郡・出石、大竹、片野、三田、大桑、余戸 <p>美濃国神名記「山県郡 1 2 社」</p>	<p>1 2 2 1 年 小田二郎右衛門有知（鎌倉幕府の功臣 八田知家の子）</p> <p>承久の乱の功績で、伊自良荘の地頭職になる。</p> <p><u>伊自良次郎左右衛門尉有知</u>，伊自良城（藤倉城）に住む。</p> <p>以後，大桑城の落城まで一族が代々，地頭職となる。</p> <p>（逸見又太郎惟長は大桑の地頭職）</p> <p>1 3 3 6 年 <u>伊自良次郎左右衛門</u> 根尾の堀口氏と南軍に参加</p> <p>福井県の味見に移動（現在は，美山町の伊自良温泉の地域）</p> <p>美濃国より越前国小山庄に入り，小山庄の領家と共に成長。鎌倉時代に北条氏の地頭代として地頭請に成功。嘉歴3年(1328)には伊自良知綱が小山庄地頭職を確保。その後味見郷中手に館を構え，江戸時代末までこの地を支配。</p> <p>1 4 3 2 年 禁裏御料所（代官 土岐氏）</p> <p>1 5 4 2 年 大桑城落城 追悼法要に次郎左右衛門の名がある。</p> <p>この地域は，斉藤家に代わって織田信長の勢力下になる。</p> <p>1 6 0 0 年 関ヶ原の戦い</p> <p>江戸末期</p> <ul style="list-style-type: none">・幕領 <u>掛</u>，平井，小倉，四日市，藤倉・岩村藩 <u>上願</u>，松尾，大桑，洞田，藤倉・旗本押田藤右衛門勝輝知行所 <u>平井</u>，松尾・尾州名古屋藩徳川義宜知行所 <u>長滝</u> <p>1 8 7 1 年 明治4年 伊自良村設置（岐阜県第8大区第4小区）</p> <p>廃藩置県 笠松 高山 大垣 加納 岩村 郡上 苗木 今尾 <u>高富</u> 野村</p> <p>1 8 7 5 年 明治8年 掛村設置</p> <p>（掛村，大岡村が合併）</p> <p>1 8 8 4 年 明治1 7 年 掛村外四ヶ村組合戸長役場を開設（岐阜県布達）</p> <p>（<u>掛</u>，平井，<u>長滝</u>，松尾，<u>上願</u>）</p> <p>大森村外戸長役場（大森，藤倉，小倉，洞田，梅原）</p> <p>1 8 8 8 年 明治2 1 年 上願村外八ヶ村組合役場設置 町村制に移行</p> <p>（<u>大森</u>，<u>洞田</u>，<u>小倉</u>，<u>藤倉</u>，<u>松尾</u>，<u>上願</u>，<u>掛</u>，<u>平井</u>，<u>長滝</u>）</p> <p>1 8 9 7 年 明治3 0 年 山県郡 1 町1 6 ヶ村4 5 字となる。</p> <p><u>上伊自良村に改称</u> 役場 大字掛字北屋敷 村長 梅田英一氏</p> <p>（松尾，上願，掛，平井，長滝）</p> <p><u>下伊自良村</u> 大森，洞田，小倉，藤倉は分村独立</p> <p>1 9 5 5 年 昭和3 0 年 伊自良村の誕生 両村の議会で合併が議決</p> <ul style="list-style-type: none">・もともと両村は伊自良郷であつものが分村・伊自良川は両村と深い関係・釜ヶ谷の山林は両村の共有林として生活基盤である・その他の生活習慣等も同様である <p>2 0 0 3 年 平成1 5 年 山県市誕生 （伊自良村，高富町，美山町が合併）</p>
縄 文 時 代	<p>1 万年前 沖積世代</p> <p>新石器時代 9 0 0 0 年前</p> <ul style="list-style-type: none">・石器・剥片石器の発掘（大森恋洞）・石鏃 本村松尾・大森恋洞西方地区	<p>1 1 8 3 年 皇室領荘園</p> <p>1 1 8 5 年 源頼朝が守護・地頭を配置</p> <p>1 1 9 0 年 荘園伊自良荘として，長講堂領となる</p>	